

令和6年丹波市10大ニュース

※掲載順序は順位等を示すものではありません。

タイトル及び説明

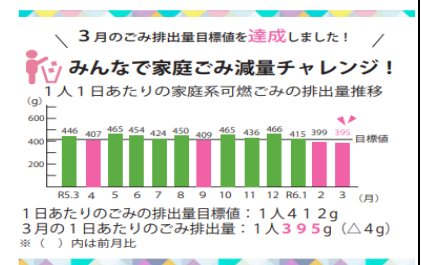
丹波市制施行20周年を記念して各種記念事業を実施

令和6年11月3日、丹波市制20周年を記念し、記念式典を開催しました。式典には、地元選出の国会議員及び県議会議員をはじめ約300人が参加し、20年を振り返る動画やビデオメッセージ、もみじ賞・かたくり賞の表彰を行いました。また、「未来に向かって飛躍をしながらこれからも住みやすくほっとできる場所であってほしい」との願いを込めて、「丹波にずっと、丹波でもっと。丹波でほっと。」をキャッチフレーズに、大村崑さんや辛坊治郎さんらによる講演会、認定こども園等への木製玩具の寄贈など様々な事業を展開しました。



市民みんなで「家庭ごみ減量チャレンジ」に取り組み燃やすごみ袋を半額化

林市政誕生以降、県内で最も高い燃やすごみ袋の半額化について議会提案を続けながら、市民一丸となって「家庭ごみ減量チャレンジ」に取り組み、1日あたりのごみ排出量が目標値を達成しました。これらの取り組みが評価され、令和6年6月議会で「丹波市廃棄物の適正処理、減量及び再利用に関する条例の一部を改正する条例」（案）が可決。令和6年10月1日、燃やすごみ袋を半額化しました。



春日・市島地域路線バス試験運行を実施～市内バス利用者は18万人に大幅アップ～

令和6年4月から7月まで、春日地域の野瀬バス停発の路線バスを増便し、中高生の通学支援を行うと同時に、同路線を市島地域まで延伸し丹波医療センターまでの直行便として運行する社会実験を実施しました。この結果、一定の移動需要が見込まれたため、11月からは同一ルートで実証実験に移行するなど本格運行に向けて動き出しました。また、路線再編や通学支援などの取組により丹波市の路線バス利用者数は令和2年の48,681人から年々増加し、令和5年10月1日から令和6年9月30日までの1年間で18万人台にまでV字回復しました。利用者増が便数増や路線の新設につながる好循環が生まれており、公共交通ネットワークのさらなる充実が期待されています。



地域の除草課題の解決に向けたラジコン式草刈機による実証実験を開始

少子高齢化の進行により、地域の道路や河川などの除草作業の継続が困難となっています。この地域課題をみんなで考え補完する仕組みを構築しようとする自治協議会に対し、ラジコン式草刈機を貸与し良好な景観形成を維持すると共に、担い手不足や負担軽減などの解決に向けた実証実験がはじまりました。



林市政2期目がスタート

過去最多の5人が立候補した市長選挙（令和6年11月17日執行）の結果、林市長が当選し、12月5日から林市政2期目がスタートしました。今回の選挙では、兵庫県知事選挙が同日に執行され、丹波市では初となる知事選挙・市長選挙・市議会議員選挙のトリプル選挙となりました。また、議員定数が20人から18人となって初めて執行された市議会議員選挙には、20人が立候補しました。



タイトル及び説明
丹波市産農産物ブランド「丹_(まごころ)のやさい」が誕生 新名物「丹_(まごころ)のあんバターサンド」の販売を開始 兵庫県最大の農地面積を誇り、古来、多種多様で特徴ある丹波市の農産物のイメージアップを目指し、「まごころが通じ合う豊かなおいしさ」をコンセプトに新たなブランドとなる「丹のやさい」を発表しました。また、農・商・工が連携し、丹波大納言小豆をより身近に感じていただくための新たな名物が誕生。「丹のやさい」の発表とあわせて「丹のあんバターサンド」として、市内22店舗以上の飲食事業者で販売されています。 
丹波市の魅力発信に丹波市観光アンバサダーを任命 令和6年5月31日、旧氷上高等小学校校舎（たんば黎明館）で丹波市観光アンバサダー任命式を実施し、俳優の新木宏典（あらきひろふみ）氏を観光アンバサダーに任命しました。観光アンバサダーとサポーターの方々が、自身のSNS（Instagram、X）で丹波市の魅力を発信するとともに、市内で開催された催事に新木氏が参加し、イベントを盛り上げました。今後、活動を通して丹波市の認知度向上と誘客につなげていきます（丹波市観光アンバサダー設置要綱を制定）。 
青垣児童公園「青垣ひろっぱーく」がリニューアルオープン 「都市・自然環境を活かした公園整備方針」に基づき、青垣住民センター別館跡地と既存の公園を活用した青垣児童公園（愛称「青垣ひろっぱーく」）が、令和6年7月15日にリニューアルオープンしました。子どもたちや親子、地域住民の憩いと健康づくり、広域交流の場として、広大な芝生広場や健康遊具広場、キッチンカースペースが新たに加わり、子どもから大人までが一緒に楽しむことのできる公園へと生まれ変わりました。 
竹田小学校と前山小学校が統合し竹山小学校が開校 令和4年に統合を決定した市島地域の竹田小学校と前山小学校が、令和6年4月に竹山小学校として開校しました。前山小学校区の通学支援として専用のスクールバスを導入し、竹山小学校内にはスクールバスロータリーの庇（ひさし）を整備しました。公募により決定した新しい校章には、「竹のようにしなやかで強くまっすぐにすくすくと、礼儀正しく育ってほしい」という作者の想いが込められています。今後、市島地域では、吉見小学校と三輪小学校が令和8年4月の統合を予定しています。 
「第3次丹波市総合計画」を策定 市の政策の最上位計画である「第3次丹波市総合計画」を策定しました（計画期間：令和7年度から10年間）。市民・地域、事業者、行政がともにめざすまちの将来像を「まなびときめく丹_(まごころ)の里～しあわせ輝くみんなの未来へ～」とし、だれもが主役となり、自分の学んだことを活かして、自分らしく暮らしたり、まわりの人を支えたりしながら、しあわせを実感できるまち、さらには、次世代を担うこども達のふるさと丹波市への愛着や誇りの醸成につながるものとなるよう計画を推進していきます。 